



社会科学概論

—都市と地域の経済学—

ガイダンス



2017年4月12日(水)

佐藤 徹治



講義の目的

- 我々の生活を取りまく社会経済や都市・地域について、過去の経緯や実態を理解した上で、数式やグラフ等を用いた論理的な分析手法であるマクロ経済学、ミクロ経済学、都市・地域経済学の基礎を習得すること

関連科目

- トランスポートプランニング (4S)
- 地域経済・都市行政 (4S)
- 都市計画 (5S)

講義の日程と内容

4/12	ガイダンス	
	①マクロ経済学(1)	GDPの概念と物価指数
4/19	②マクロ経済学(2)	短期モデルとIS-LM分析
4/26	③マクロ経済学(3)	長期モデルと成長理論
5/10	④ミクロ経済学(1)	市場、選好と効用
5/17	⑤ミクロ経済学(2)	家計の最適行動
5/24	⑥ミクロ経済学(3)	企業の最適行動
5/31	⑦公共経済学	市場の失敗と政府の役割
6/ 7	⑧まとめと中間試験	
6/14	⑨都市規模と都市集積	
6/21	⑩産業立地	
6/28	⑪土地市場と住宅市場	
7/ 5	⑫都市・地域の成長と格差	
7/12	⑬地域間人口移動と地域間交易	
7/19	⑭都市における環境問題とアメニティ	
7/26	⑮まとめと期末試験	

評価基準

中間試験：100点満点、期末試験：100点満点



平均点(100点満点)で評価

60点以上で合格

参考書

- ・中谷巖：「入門マクロ経済学第5版」、日本評論社
- ・ハル・R・ヴァリアン：「入門ミクロ経済学」、勁草書房
- ・黒田達朗他：「都市と地域の経済学[新版]」、有斐閣ブックス